



英賀瓦工の里 高町

昔の高町村の北部で瓦に適したよい粘土がとれたので、室町時代～江戸時代に英賀瓦工集団が瓦をつくりました。京都の東本願寺や西本願寺、伏見城、醍醐寺、広島島の厳島神社などで使われました。地元では英賀神社や古い家に、高町の職人の名前が書かれた古い瓦がたくさん残っています。




英賀城 本丸跡碑

英賀城は、嘉吉元年(1441)三木通近がお城に入り、三木氏が殿さまとして10代・140年間にわたって治めました。その後、播磨地方の政治、文化、宗教の中心となる寺内町ができて栄えました。しかし、羽柴秀吉が攻撃してお城は壊されました。そのことがこの碑に彫られています。



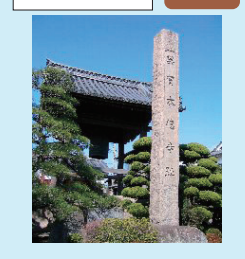
英賀神社

英賀神社は英賀保の守り神で、『播磨国風土記』にも書かれている歴史ある立派な神社です。英賀城の殿さま三木通近が領地の中で一番の守り神と敬い、代々の殿さまがとても大事にしてきました。国の重要文化財「梵鐘」、県の文化財「天神縁起絵巻」などが残されています。




英賀本徳寺(英賀御坊)跡

英賀城の殿さまだった三木氏の一族や播磨の町衆の信仰を受けて、明応2年(1493)蓮如上人が開き、永正12年(1515)に英賀本徳寺が完成しました。そのころ、播磨の浄土真宗は最も栄えていました。しかし、天正8年(1580)に秀吉に攻められたので、お寺は亀山に移されました。



英賀薬師(旧法寿寺跡)

英賀城の殿さまの一族、河野彦太郎の祖先・圓澄が、延宝9年(1681)に建てました。亀山本徳寺の西の山にあった英賀城の殿さまと家来の墓がここに移されました。鎌倉時代につくられたと伝わる「薬師如来」が数体おかれ、英賀薬師とよばれています。昭和43年(1968)に建て直されました。



英賀保地区




調べたこと、
分かったことを
書いてみよう!

その昔、この地区は英賀城を中心として栄えていたが、今では本丸跡が残っているだけです。どうして英賀城はなくなってしまったのでしょうか？ 調べてみましょう。

 遺跡・史跡 歴史上の名所	 伝統芸能 など
 神社・仏閣 歴史的建造物	 景勝
 歴史上の 人物など	 生物・花
 祭り	 町並み
 美術品	 etc その他


亀山本徳寺廟所西山支坊

江戸時代中ごろに「本願寺参り」をする人が多くなりましたが、庶民は、なかなか本山へおまいりすることができませんでした。そこで、西本願寺分院であった亀山本徳寺の納骨所として延宝9年(1681)に建てられました。今でも「西のお山」とよばれています。




琴平常夜灯と室津街道道標

室津街道は町坪の敷山南から山崎山のふもとを通って夢前川につながる道です。金毘羅まいるの人々がよく利用しました。渡しのあった夢前川の左岸には常夜灯がおかれました。山崎には金毘羅さんの分霊がまつられ、この灯籠に火をともしおまいりの代わりとしました。



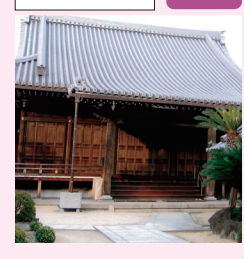
高町 壇尻と梯子獅子

英賀神社の秋祭りといえば梯子獅子と壇尻が有名です。この壇尻は彫物師・丸山新之丞の弟・大橋宗三郎昌信がつくったと分かりました。丸山一族は延宝年間(1673~81)から神社やお寺にすばらしい作品を多く残しています。県内で今でも使われている壇尻の中で、もっとも古いと考えられています。



明蓮寺

英賀城の中には、英賀本徳寺などの35のお寺がありました。英賀城が壊された後は各地にちらばりましたが、ただ一つ残っているお寺が明蓮寺です。夢前川の河原にあった英賀本徳寺跡碑が昭和3年(1928)ごろにお寺の境内に移されました。



山崎山(大鷹山)

山崎山には、室町時代から英賀城のとりでがあり、山崎騎右衛門広宗がとりでを守っていました。とりでは、天正8年(1580)に羽柴秀吉の攻撃を受けたとき、真っ先に壊されてしまいました。秀吉が英賀城を攻める本拠地となりました。別名大鷹山ともよばれています。

